1. 令和7年7月～9月期の景気動向

今期のDI平均値は△29.4ポイント。建設業は31ポイント、小売業は6ポイント、サービス業は11ポイント上がったが、製造業は5ポイント下がり、卸売業は横ばい。前期の4～6月の△38ポイントから8.6ポイントプラスとなった。

業種／項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 38 (△ 31)	△ 31 (△ 56)	△ 29 (△ 29)	△ 34 (△ 29)	△ 44 (△ 56)	△ 33 (△ 22)	△ 31 (△ 23)	△ 24 (△ 27)	△ 44 (△ 61)	△ 44 (△ 61)
採算		△ 25 (△ 38)	△ 25 (△ 38)	△ 49 (△ 34)	△ 37 (△ 27)	△ 44 (△ 33)	△ 44 (△ 11)	△ 16 (△ 30)	△ 21 (△ 26)	△ 35 (△ 44)	△ 47 (△ 31)
資金繰り		△ 19 (△ 25)	△ 13 (△ 38)	△ 34 (△ 22)	△ 17 (△ 15)	△ 22 (△ 22)	△ 33 (△ 22)	△ 24 (△ 28)	△ 26 (△ 24)	△ 28 (△ 29)	△ 33 (△ 29)
業況		△ 25 (△ 56)	△ 25 (△ 56)	△ 39 (△ 34)	△ 28 (△ 22)	△ 33 (△ 33)	△ 33 (△ 22)	△ 26 (△ 32)	△ 28 (△ 38)	△ 24 (△ 35)	△ 47 (△ 35)
経営上の当面する問題点	1位	材料価格の上昇		需要の停滞		仕入単価の上昇		仕入単価の上昇		材料等仕入単価の上昇	
	2位	民間需要の停滞		生産設備の不足・老朽化		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		人件費の増加	
	3位	官公需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		店舗・倉庫の狭隘・老朽化		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
業種別コメント		建設業はDI値が△25ポイントと前回調査から31ポイント改善された。民間・官公需要の停滞から売上高は伸び悩みが見られるものの、材料価格の上昇によるコスト増加は価格転嫁が順調に進んだことで、採算・資金繰りの改善が見られた。来期の見通しは年末に向けた官公需要の期待から売上高・資金繰りで改善が期待されている。		製造業はDI値が△39ポイントと前回調査から5ポイント悪化した。需要の停滞に加え、老朽化した生産設備の保守費用が採算・資金繰りを悪化させている。来期の見通しは需要の停滞により、依然として厳しい状況が継続することが予想されているが、コストの価格転嫁が順調に進むことで採算・資金繰り・業況の回復が期待されている。		卸売業はDI値が△33ポイントと前回の調査から横ばい。仕入価格の上昇が依然継続しれいるため、売上高は改善されたが、仕入コスト増に価格転嫁が追い付かず採算は悪化している。資金繰りは金融機関からの後押しもあり、横ばいとなっている。来期の見通しは仕入価格の再上昇に伴い、売上高は伸びるが、採算・業績は状況が懸念される。		小売業はDI値が△26ポイントと前回の調査から6ポイント改善された。需要の停滞や物価高騰の影響から売上高は悪化しているが、採算は価格転嫁が順調に進んでいることから資金繰りも改善が見られた。来期の見通しは年末に向けた季節需要の期待から売上高の回復は期待されるものの、再三の仕入価格の上昇も予測されることから採算・資金繰り・業況で厳しい状況が予想される。		サービス業のDI値は△24ポイントと前回調査から11ポイント改善された。売上高は季節需要の影響もあり大幅に改善が見られたが、採算・資金繰りは材料等仕入単価の上昇や人件費増加の価格転嫁が追い付かないことで回復が遅れている。来期の見通しは、最低賃金の引上げや材料等仕入価格の再上昇が懸念されるため、採算・資金繰り・業況で厳しい状況が予想される。	



とくに好調（50≦DI）　好調（25≦DI<50）　まあまあ（0≦DI<25）　不振（△25≦DI<0）　きわめて不振（DI<△25）

※当所では分析にあたってD･I（好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値）を採用しました。

※（ ）は前回調査時のD･I値